

令和9年度

関西医科大学
大学院医学研究科

修士課程

募集要項

関西医科大学 建学の精神

本学は、「慈仁心鏡」、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成することを建学の精神とする。

関西医科大学 大学の使命

本学は、独創的な知性と豊かな人間性を備え、社会に貢献し得る医療人を育成するとともに、深く医学、看護学及びリハビリテーション学を研究し、広く文化の発展と公共の健康・福祉に寄与することを使命とする。

目次

修士課程

教育の理念	P.1
3つのポリシー	P.1 ~ P.2
試験概要	P.3
受験資格	P.3
試験実施日程	P.4
出願資格審査について	P.4
出願手続	P.5 ~ P.6
選抜方法	P.6 ~ P.7
合格発表	P.7
入学手続	P.7
納入金／授業料免除制度等	P.8
特別研究科目紹介	P.9 ~ P.11
問い合わせ先	P.11

◆ 教育の理念 ◆

関西医科大学大学院医学研究科の修士課程は、医学部医学科以外の出身者を対象に、医学に関連する生命科学の基礎並びに先端医療に関する専門教育を行うことにより、それぞれの出身領域の知識を医療の場へと有機的に結びつけることのできる、これからの医学研究及び医療を支える人材を育成することを理念とする。

目 標

- 1) 幅広い知識と技能の修得：医学部医学科以外の修了生を対象に、幅広い医学の基礎知識を基盤として、最先端の医学研究に触れることで、基礎的医学研究能力を養う。
- 2) 高度専門職業人の育成：豊かな人間性と広い学識を併せもち、今後の多様な医学及び医療関連分野で活躍できる高度専門職業人を育成する。
- 3) 社会貢献：自らの学修成果をもって、次世代の医学及び医療の発展に寄与するとともに、地域社会に貢献する人材を養成する。

◆ アドミッション・ポリシー ◆

本課程は、医学部医学科以外の出身者を対象に、医学に関連する生命科学の基礎並びに先端医療に関する専門教育を行うことにより、それぞれの出身領域の知識を医療の場へと有機的に結びつけることのできる、これからの医学研究・医療を支える人材を育成することを理念としている。本課程の理念を理解し、ディプロマ・ポリシーを達成するために、アドミッション・ポリシーとして次のような学生を求める。

【求める学生像】

1. 他分野の専門知識を多様な医学・医療関連分野で応用しようとする熱意のある人
2. 高度専門職業人として医学・医療関連分野で活躍する意欲のある人
3. 大学卒業程度の知識を有し、自らの学修成果をもって、人類の健康増進と福祉の向上に寄与するとともに、地域社会に貢献する意思のある人

求める学生像に沿った学生を選抜し、カリキュラム・ポリシーに定める課程を修了可能な能力を有しているかを評価するために、入学者選抜の基本方針を次のとおりとする。

【入学者選抜の基本方針】

1. 面接試験により、医学に関連する生命科学に深い関心を持ち、強い熱意、真摯な姿勢を評価する。
2. 外国語（英語）試験により、履修を進めるにあたり、情報収集や研究発表に必要な英語能力を評価する。
3. 専門科目試験により、志望する研究分野における科目の履修に必要な生命科学や統計学等の大学卒業程度の基礎的知識と素養を評価する。

◆カリキュラム・ポリシー◆

医学研究科修士課程では、医学部医学科以外で様々な学問を修得してきた学生が入学してくることから、「学位授与に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」に基づき、学生が修得しなければならない以下の教育課程を編成する。

1. 共通科目

（大学院総合講義） 研究を進めるにあたって必要な知識を修得するとともに、著名な研究者の講演から、研究に対する姿勢を学ぶ。

（医科学概論） 医学に関連する生命科学分野及び臨床医学の基礎的知識を、バランスよく学修する。

（医学英語） キャリアを形成するために必要な医学英語およびメディカルコミュニケーションに関する基礎的知識を、学修する。

2. 専門科目

（講義科目） 入学時に自らが選択した先端医科学、ゲノム医科学、医用工学の3つの各分野に設定された科目を履修し、多様化する医療ニーズに応えるために必要な専門的知識、技能を修得する。

（特別研究科目） 自らの専門領域において、演習、研究・論文作成指導を受けることにより、基礎的な医科学研究を遂行するに足る科学的分析能力と問題解決力を修得する。

◆ディプロマ・ポリシー◆

関西医科大学大学院医学研究科医科学専攻の修士課程を修了し、以下の教育目標を全て満たしたと認められる者に修士（医科学）の学位を授与する。

【先端医科学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. 高次生命現象を理解し医学研究・医療現場に活用するために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

【ゲノム医科学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. ゲノム情報を医学研究・医療現場に活用するために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

【医用工学分野】

1. 幅広い医学の基礎知識と、高い倫理観を身につけている。
2. 医療介護分野のニーズに応えるために必要な専門的知識と技能がある。
3. 自らの専門領域において、研究活動を行うのに必要な科学的分析能力と問題解決力がある。

試験概要

試験種別	募集人員
第一次募集(一般入試・社会人入試)	8名
追加募集(一般入試・社会人入試)※	

※第一次募集で定員に達した場合は追加募集は行いません。

受験資格

<一般入試>

- (1) 四年制大学を卒業した者および令和9年3月に卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定による学士の学位を授与された者および令和9年3月までに授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育機関であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者および令和9年3月までに修了見込みの者
- (6) 文部科学大臣が指定した者

以下の者は事前の出願資格審査が必要です。

- (7) 前(1)号に定める大学に3年以上在学した者であって、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
- (8) 外国において学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優秀な成績で修得したと大学院が認めた者
- (9) 本学大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めたもので、22歳に達した者（令和9年4月1日までに22歳に達する者も含む。）

<社会人入試>

前(1)～(9)号のいずれかに該当し、且つ、病院、教育・研究機関、官公署、その他民間会社等に在職している者、または入学時に就業が見込まれ、大学院入学後もその身分を有する者。なお、出願にあたっては、在職証明書（本学勤務の者を除く）、及び勤務先の代表者作成の受験許可書（本学勤務者は病院長作成のものであること）を必要とする。また、自営業等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類を必要とする。

試験実施日程

< 一般入試・社会人入試共通 >

	第一次募集	追加募集
出願資格審査書類受付期間 * 受験資格(7)～(9)該当者	令和8年7月 6日(月)～ 7月17日(金)	令和8年10月13日(火)～ 10月23日(金)
願書受付期間	令和8年7月 6日(月)～ 7月31日(金)	令和8年10月13日(火)～ 11月20日(金)
試験期日	令和8年8月18日(火)	令和8年12月 5日(土)
合格発表	令和8年9月 9日(水) 正午	令和9年 1月13日(水) 正午
入学手続期間	令和8年9月 9日(水)～ 9月25日(金)	令和9年 1月13日(水)～ 1月29日(金)

※1 受験資格(3ページ)の(1)～(6)に該当する方は出願資格審査は不要です。直接願書をご提出ください。

※2 受験資格(3ページ)の(7)～(9)に該当する方は事前の出願資格審査が必要です。
受審漏れのないようご注意ください。

出願資格審査について 受験資格(7)(8)(9)該当者

出願に先立ち出願資格審査を必要とする者は、下記期間に必要な書類を提出または郵送してください。なお、**郵送時は封筒の表に「出願資格審査書類在中」と朱書きし、郵送してください(書留等)**。

・ 出願資格審査書類受付期間

第一次募集：令和8年 7月 6日(月)～ 7月17日(金)

追加募集：令和8年10月13日(火)～10月23日(金)

・ 出願資格審査書類

審査に必要な書類は、本学ホームページ(<https://www.kmu.ac.jp/juk/>)を参照してください。
指定のないものは様式任意です。

・ 出願資格審査書類提出先

5ページの「出願手続」の提出先と同様です。

出願手続

(1) 入学願書受付期間

第一次募集：令和8年 7月 6日（月）～ 7月31日（金）

追加募集：令和8年10月13日（火）～11月20日（金）

(2) 提出方法

期日までに、大学院課窓口へ直接提出または郵送してください。なお、郵送時は封筒の表に「出願書類在中」と朱書きし、郵送してください（書留等）。

(3) 提出先

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

関西医科大学医学部事務部大学院課 Tel：072-804-0101（内線2225）

(4) 提出書類

<一般入試、社会人入試共通>

◎印は全員必須、その他は該当する場合のみ提出が必要です。

◎入学願書	本学所定の様式に記入。入学願書の裏面には、高等学校入学から現在に至るまでの経歴を年次に従い、漏れなく記入すること。
◎受験票・ 受験写真票	本学所定の様式に記入。
◎写真2枚	3ヶ月以内に撮影のもので上半身正面脱帽像に限る。 タテ4.5cm×ヨコ3.5cm以内。裏面に氏名を記入した上で、 上記願書および受験写真票の所定欄に貼付すること。
◎入学検定料	20,000円 ※入学検定料を出願期間内に必ず受験者本人名義で振込ください。 （手数料本人負担） ※振込依頼人名の頭に「INNM」と入力するようにしてください。 （例）「INNM カンサイタロウ」 金融機関 りそな銀行（銀行コード0010） 支店名 守口支店（支店コード211） 預金種別 普通預金 口座番号 4667068 口座名義 学校法人関西医科大学 か) ガク)カンサイイカダ イカク
卒業証明書（大学等） （または卒業見込み 証明書）	出願資格審査で提出済みの者は不要。
成績証明書（大学等）	出願資格審査で提出済みの者は不要。
外国語（英語）試験 免除制度の必要書類	試験のスコアを証する書類（コピー可）。 ただし、出願日から遡って2年以内の結果に限る。

※婚姻等により、卒業証明書や成績証明書の姓と現在の姓が異なる場合は、戸籍抄本を併せて提出すること。

<社会人入試のみ必要>

在職証明書	本学勤務者は不要。自営業等で在職証明書が発行できない場合は、職業を有することが確認できる書類。
受験許可書	本学所定の様式に記入。勤務先の代表者作成のものであること (本学の各附属病院勤務の場合、病院長作成のものであること)。

選抜方法

入学者の選考は、筆記試験（外国語試験、専門科目試験）、個別面接を実施します。

外国語(英語)試験

試験時間：60分

英文の読解力、記述能力を問います。

辞書の使用を許可します。ただし電子辞書は不可。

※外国語(英語)試験免除制度について

詳細は本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。

専門科目試験

試験時間：80分

生物学、物理学、数学、統計学などから出題します。

試験問題については、本学ホームページ (<https://www.kmu.ac.jp/juk/>) を参照してください。

※過去問題の閲覧について

過去問題の閲覧を希望する場合は事務局（医学部事務部大学院課）までお問合せください。

個別面接

試験時間：一人あたり15分程度

面接官3名で評価します。

試験日・場所等

試験当日は、受験票を持参してください。試験時間・試験場所は変更となる可能性があります。

その場合、ホームページにてお知らせするとともに、出願者に案内します。

第一次募集

試験期日	試験科目	試験場所
令和8年8月18日(火)	午前9時15分集合(厳守)	
	午前 9時30分 ～10時30分	外国語(英語) 試験
	午前10時50分 ～午後 0時10分	専門科目試験
	午後 0時20分～	個別面接
		関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟4階「中会議室」

追加募集

試験期日	試験科目	試験場所
令和8年12月5日(土)	午前9時15分集合(厳守)	
	午前 9時30分 ～10時30分	外国語(英語) 試験
	午前10時50分 ～午後 0時10分	専門科目試験
	午後 0時20分～	個別面接
		関西医科大学枚方キャンパス 医学部棟4階「中会議室」

合格発表

第一次募集：令和8年9月 9日(水) 正午

追加募集：令和9年1月13日(水) 正午

本学ホームページおよび学内大学院掲示板に掲示するとともに、願書に記入された住所に文書で送付します。

合格者には、入学手続きに必要な書類を同封します。

入学手続

第一次募集：令和8年9月 9日(水)～9月25日(金)

追加募集：令和9年1月13日(水)～1月29日(金)

合格者は期間内に手続きを完了してください。手続きに当たっては、8ページ記載の納入金の払込及び書類の提出が必要です。詳細は、合格通知時に同封する書面で確認してください。指定の期日までに入学手続が完了しない時は、入学の意思がないものと判断し、入学を許可しません。

納入金

	初年度	2年次以降
入学金	200,000 円 (200,000 円)	—
年間授業料 (実習費込)	400,000 円 (280,000 円)	400,000 円 (260,000 円)
学生教育研究災害傷害保険加入料	1,750 円 (2,600 円)	—
年間計	601,750 円 (482,600 円)	400,000 円 (260,000 円)

注：() 内は長期履修3年制の金額

- ・授業料は1年分を前期と後期の2回に分けて請求を行います。
- ・入学手続時には入学金、授業料（初年度前期分）、学生教育研究災害傷害保険加入料の納入が必要です。

授業料免除制度（修士課程）

各学年ごとに、先端医科学分野、ゲノム医科学分野、医用工学分野の各分野において、申請日の属する年度に公表される日本学生支援機構貸与奨学金（大学院生）の修士・博士課程前期における第二種奨学金の家計基準に該当し、かつ学業成績が優秀な学生を対象に、授業料を全額免除します。ただし長期履修コースの学生の場合、第3学年においては授業料免除制度の対象外となります。

その他の制度

ティーチング・アシスタント（TA）制度

大学院の教育研究の充実、振興と学部教育の充実及び後継者の育成を図るために、大学院に在籍しながら本学における教育の補助を行う者に対して助成する制度です。年間最大10万円を支給します。

リサーチ・アシスタント（RA）制度

大学院の教育研究の活性化・高度化を図るとともに、大学院学生の奨学に資することを目的として、本学でのプロジェクト研究等の補助的業務に従事する者に対して助成する制度です。年間最大80万円を支給します（定員があります）。

博士課程進学支援

本学大学院医学研究科修士課程修了後に本学大学院医学研究科博士課程に入学した場合、申請によって博士課程入学金の全額が免除されます。

特別研究科目

先端医科学分野

教育目標	指導教員名 (所属)
生体内に存在する幹・前駆細胞の正常・病態における動態を追跡し、着目した細胞が、いつ・どこで・どんな細胞として機能するかを把握し、その細胞をどうすれば疾患治療に役立てることが可能かについて検証を行う。また、再生可能な動物の自発的再生機構を明らかとし、哺乳類への応用に資する研究を行う。これらの研究について指導を行う。	北田容章 (解剖学講座)
情動や注意、社会的環境などが行動を変化させる神経メカニズムを明らかにするための、実験の計画、遂行、データの解釈、論文執筆について指導を行う。	中村加枝 (生理学講座)
蛋白質科学 (構造生物学、生化学など) と神経科学的アプローチにより、蛋白質分子の機能を原子レベルから個体レベルまで解析する。生体における蛋白質分子の生理的及び病態生理的な役割を解明し、「くすり」の標的となる蛋白質分子を制御する化学物質・分子を探索・設計することを目指す研究について指導を行う。	小林拓也 (医化学講座)
細胞外マトリックスの形成メカニズム、機能、および疾患における役割を分子レベルで明らかにし、新たな組織再生技術開発を目指す研究について指導を行う。	中邨智之 (薬理学講座)
微生物の中でも、主にヒトに病原性のあるウイルスについての基本的な知識および実験手技を修得し、より発展的な微生物学研究に繋げられるような土台を築くことを目標に研究指導を行う。具体的には、研究テーマの選択や研究計画の立案から始め、感染細胞の培養、動物 (マウス) を使った感染実験など幅広く学び、研究成果を得ることを目指す。	大隈和 (微生物学講座)
再生医学に関して、最新の知識と研究の動向を学び、再生医学研究の意義を理解する。自ら再生医学研究を立案し、遂行するための基本的技術を習得する。再生医学の実践として、iPS 細胞を含む多能性幹細胞から目的とする臓器の細胞へ分化誘導する研究を指導する。疾患特異的 iPS 細胞を用いた病態解明や新規治療法開発などの研究についても指導を行う。	人見浩史 (iPS・幹細胞再生医学講座)
本特別研究の出発点は各人が興味を有する臓器や疾患である。指導教員と共に臓器再生医療や新しい疾患治療方法の構築を目指して、情報収集や分析、導き出される仮説の立案と証明方法について議論する。ツールはヒト iPS 細胞、次世代シーケンサー、最新鋭質量分析機、FACS 等、多彩である。研究成果と共に、学生自身の未来を輝かせるために自己革新も目指す。	服部文幸 (iPS・幹細胞再生医学講座)
医療データベースを用いた臨床研究の手法や利用上注意すべき点、結果解釈の注意点などを、研究立案から論文作成まで、実際の医療データベースの分析を通じて学ぶ。	野田龍也 (メディカルデータサイエンス講座)
法科学分野における基礎知識と技能を身につける。この中には、生体成分や薬毒物の微量鑑定、DNA 型鑑定に関する基礎知識、基礎技術および機器の操作法の修得を含む。これらの知識・技術を駆使する研究について、企画・遂行・考察・論文作成の技術を学習する。解剖介助の知識及び技術も修得する。	赤根敦 (法医学講座)
細胞内シグナル伝達の視点から、免疫担当細胞の分化過程ならびに機能発現の分子基盤解明を目指す。また、これら基礎研究から得られた知見に基づき、難治性免疫疾患を標的とした新規の免疫制御技術の開発に取り組む。	松田達志 (附属生命医学研究所生体情報部門)
実験動物における種々の疾病の診断・治療・予防に関する知識を習得し、問題解決に応用できる能力を養う。また発生病学技術を駆使した遺伝子改変動物や疾患モデル動物の作製を通じ、その分子生物学的、生理学または病理学等の解析ができる研究者の育成を目指す。	李成一 (附属生命医学研究所モデル動物部門)
分子生物学・生化学・生理学・行動学など様々な研究手法を駆使して、外界からの刺激に対して哺乳類の脳が適切な情動やそれに伴う行動および生理応答を誘発するメカニズムを解明する。	小早川令子 (附属生命医学研究所神経機能部門)
ヒトや動物は危機状態に対処する保護能力を進化させた。これら能力を感覚刺激により人為的に誘導する感覚医学・創薬は、心筋梗塞、脳梗塞、敗血症、急性呼吸窮迫症候などの救急疾患や精神疾患などへの治療効果をもつ新たな医療として有望である。感覚医学・創薬を題材とし、感覚と脳機能の究明、難病治療薬や人工冬眠などの新技術の開発に必要な知識と経験を習得する。	小早川高 (附属生命医学研究所侵襲反応制御部門)
ゲノム編集技術を用いた研究手法を駆使して、疾患の分子メカニズムの解明や新しい治療法の開発に関する研究の指導を行う。	徳弘圭造 (附属生命医学研究所ゲノム編集部門)
がんの増殖、転移、薬剤耐性などの悪性化メカニズムについて分子レベルの解析からマウス個体、臨床検体を用いた解析まで一連の解析を行うために必要な知識・技術の習得を目指す。加えて、がん細胞・間質細胞相互作用のネットワーク解析や公共データベースを用いた遺伝学的解析を通じて、がんを俯瞰的に理解する研究についての指導も行う。	坂本毅治 (附属生命医学研究所がん生物学部門)

教育目標	指導教員名 (所属)
光免疫療法のさらなる発展のために、光免疫療法に適した新規標的分子の探索、標的分子に対する光免疫療法用薬剤の設計・作製、光免疫療法用薬剤の基礎的評価を包括的に行うことで、光免疫療法用の新規薬剤を開発することを目指す研究について指導を行う。	花岡宏史 (附属光免疫医学研究所基盤開発部門)
感染症、がん、アルツハイマー病などの疾患に対する免疫療法のイノベーションは今後、社会で期待される研究分野である。治療抗体探索をはじめ、感染症及び非感染症にかかわらず、さまざまな疾患に対するワクチン開発を推し進める。この研究・開発分野の根幹となる免疫記憶誘導・維持の分子、細胞、個体レベルでの理解を目指し、研究指導を行う。	福山英啓 (附属光免疫医学研究所免疫部門)
腫瘍病理学の基礎的研究について、患者病理組織およびモデル動物使用組織や細胞を材料として、悪性腫瘍の分子生物学的・組織学的特徴の解析の基礎を学び、これを応用し分子病理学的側面から未知の腫瘍の基礎的な性状の発見にアプローチする。	近藤英作 (附属光免疫医学研究所腫瘍病理学部門)
血液、呼吸器疾患、膠原病、そして感染症の4つの診療分野をつなぐ、「生体防御・免疫」をキーワードに研究を指導する。この生体防御・免疫を学ぶことにより血液、呼吸器疾患、膠原病、そして感染症それぞれの臨床と基礎をつなぐ研究者の育成を目指す。さらに生体防御・免疫の領域で研究者として将来自立できるだけの幅広く深い専門的知識と、研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得させる。	伊藤量基 (内科学第一講座)
消化器外科領域における、手術侵襲作用機構の解明、また侵襲軽減効果の検討、各種癌治療における癌転移進展メカニズムの解明、および手術療法とDDSを含めた化学療法やウィルス療法開発を目指す研究を行う。自身の研究テーマに深く取り組み、独自の視点やアプローチを持つ専門家として成長できるよう指導を行う。	海堀昌樹 (肝臓外科学講座)
臨床に直結した研究テーマに対して、臨床検体を用いて治療法の確立や病態解明を行う過程を学習し、新規知見を英文にまとめて世界に発信することができる研究者の育成を目指す。国内ならびに海外の施設との共同研究を通じて、質の高い臨床研究の立案・計画・実施・解析・論文作成を行う。	里井壯平 (胆臓外科学講座)
乳腺腫瘍学に関連したテーマで、臨床研究もしくは臨床検体を用いたトランスレーショナル研究の指導を行う。クリニカルクエストをもとに、研究の立案・計画・実施・解析・論文報告を自ら実施できる研究者の育成を目指す。	高田正泰 (乳腺外科学講座)
網膜・硝子体疾患を中心とする各種眼疾患について、病態生理、診断および治療に関する理解を深めるとともに、臨床検体解析、画像解析、および臨床研究を通じて研究遂行に必要な知識・技術の習得を目指す。さらに、臨床で得られた知見を基礎研究へ展開し新規診断法および治療法の開発につなげる、臨床と研究を結びバーストランスレーショナルリサーチに重点を置いた研究指導を行う。	今井尚徳 (眼科学講座)
哺乳類の発生における形態形成や神経回路形成機構ならびに、それらの異常によって引き起こされる病態や発達障害に関する研究について指導を行う。	平野伸二 (生物学教室)
検体検査および生理機能検査などの臨床検査医学における基礎研究力を遂行する知識と技術を取得し、新規バイオマーカー、診断法、検査機器の開発、特許取得を目指す。	神田晃 (附属病院臨床検査医学センター)
最先端の分子医学について、知識だけではなく、その動向も学び、意義を理解する。分子医学を学ぶ手段として、ラマン分光測定とイメージングの技術と原理を理解し、細胞・細菌・真菌・ウイルス・エクソソームなど臨床サンプルを分子レベルで解析する技術を学び、健康への影響を理解する。これらの知識を予防医学に応用する仕組みを作る。	Giuseppe Pezzotti (医工学センター)

ゲノム医科学分野

教育目標	指導教員名 (所属)
臨床現場におけるがんゲノム医療の遺伝子情報源は手術や生検の手技で採取された後にホルマリン固定、パラフィン包埋切片 (FFPE) が大多数を占める。最適な FFPE を作製するには固定前、固定、固定後工程で様々な影響因子を理解する必要がある。DNA の断片化率等を指標として各工程の最適解を理解し遺伝子診断用サンプル作製工程に精通した研究者の育成を目指す。	蔦幸治 (病理学講座)
疫学を用いて、人の健康に影響する種々の要因を分析し、その中から利する要因と害する要因を特定し、前者を増強し、後者を減弱させるための対策とその評価を行う。具体的には、人を対象とした大規模疫学調査のデータや比較的小規模な臨床データ等の取扱いを通して、研究倫理・統計解析・結果の解釈・論文執筆の技術についての研究指導を行う。	甲田勝康 (衛生・公衆衛生学講座)
科学的根拠に基づく医療 (EBM: Evidence Based Medicine) や予防 (EBP: Evidence Based Prevention) においては、客観的なデータに基づいた科学的根拠が不可欠であり、人を対象とする疫学研究の成果が科学的根拠の基となっている。疫学調査および研究データ収集の方法とその評価について指導し、自ら科学的根拠を生み出し、EBM や EBP を実践できる人材育成を目指す。	藤田裕規 (衛生・公衆衛生学講座)

教育目標	指導教員名（所属）
メンデル型遺伝病や多因子性疾患の発症や予後に関連する遺伝的な因子を探索する研究についての指導を行う。	日笠幸一郎 （附属生命医学研究所 ゲノム解析部門）
遺伝統計学やゲノム解析の知識と技術を駆使して、大規模なゲノム医療情報から疾患に関連する遺伝要因を特定する研究を指導する。また、そのような遺伝要因が人類にもたらされた進化的背景を考慮するなど、多角的な視点を持った人材の育成を目指す。	安河内彦輝 （附属生命医学研究所 ゲノム解析部門）
悪性腫瘍、特に胸部腫瘍に対する薬物治療に焦点をあてた研究を行う。基礎的研究としては悪性腫瘍のゲノム解析を実施し、薬物治療の効果との関連や有害事象の予測などを検討する。	倉田宝保 （呼吸器腫瘍内科学講座）

医用工学分野

教育目標	指導教員名（所属）
活動の障害（activity disorders）に関わる病態を理解し、機能評価を通して広くリハビリテーション治療のあり方を把握し、人間工学的なアプローチを通じて生活に関わる問題を解決する方略を創生できる研究者の育成を目指す。	長谷公隆 （リハビリテーション 医学講座）
ヘルスケアを運動、栄養、心理などの臨床医学のみならず行動科学、医用工学も含めて理解する。またMBA的要素としてのマーケティング、企業連携などのビジネス戦略、イノベティブな思考、実践まで幅広い能力、ネットワーク構築の修得を目指す。	木村稜 （附属病院健康科学セ ンター）
スポーツ医学センターでは、肩膝足関節を中心としたスポーツ外傷・障害の病態解明と治療戦略の構築を目的とした研究を行う。本科目では、スポーツ動作に伴う運動器負荷、腱板・関節唇損傷の発生機序、神経節制御の破綻などを理解し、画像診断、動作解析、筋力・神経筋機能評価などの手法を用いてデータを収集・解析する。さらに、傷害予防や競技復帰基準の策定に向けた研究デザインの立案、研究倫理、論文作成の基礎について学び、スポーツ医学領域の臨床課題を科学的に探求できる研究者の育成を目指す。	山門浩太郎 （附属病院スポーツ医 学センター）
生体計測装置や運動状態を計測する装置を用いて生体信号を収集し、現象をモデル化して数理的な解析を行うことで、生体现象の解明を目指した研究を実施する。研究課題としては、数理モデルの構築やデータ解析などを主とし、近年多様化する生物統計学についても研究対象とする。	北脇知己 （数学教室）
可視光からX線までの電磁波によるイメージングとスペクトロスコピーを用い、生命現象を様々な視点から計測・観察する新しい手法の開発に関する研究を行う。細胞から個体および医療材料や環境試料までを対象とし、電磁波と物質の相互作用を理解し、開発研究できる研究者・技術者の育成を目指す。	楠本邦子 （物理学教室）

【問い合わせ先】

関西医科大学 医学部事務部大学院課
〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号
電話：072-804-0101(代表) FAX：072-804-2548
Email：gradumedoffice@kmu.ac.jp

〔関西医科大学受験生入試サイト〕



